

第 33 回 Annual Larval Fish Conference 2009 年 7 月

博士課程 4 年 福西悠一氏 Honorable Mentions for Sally Richardson Award (優秀口頭発表賞) 受賞

舞鶴水産実験所で研究を行っている博士課程大学院生の福西悠一君が、第 33 回国際仔稚魚学会 (33rd Annual Larval Fish Conference) において Honorable Mentions for Sally Richardson Award (優秀口頭発表賞) を受賞した。アメリカのポートランドで開催された本大会では、受賞対象となる学生の口頭発表者は欧米の大学院生を中心に 19 名いた中、審査員の投票により第 2 位との評価である。福西君は、2005 年の本学会 29 回大会に参加した際には最優秀口頭発表賞を獲得しており、2 回連続受賞の快挙である。

受賞対象となったのは、Comparison of UV-B tolerance among wild and hatchery-reared juveniles in black sea bream (*Acanthopagrus schlegelii*) and red sea bream (*Pagrus major*) (マダイとクロダイにおける天然稚魚と飼育稚魚の UV-B 耐性の比較) と題した研究であり、著者は福西悠一・益田玲爾・Dominique Robert・山下洋である。本講演では、マダイ稚魚の天然魚と飼育魚の紫外線耐性に差はないが、クロダイの稚魚では、飼育魚よりも天然魚の方が強い紫外線耐性を持ち、かつ黒色素胞の数が多いことを報告している。稚魚が天然海域において紫外線への順応性を獲得できる可能性が示されたことから、飼育魚だけを用いて紫外線が魚類に及ぼす影響を評価することに対し警鐘を鳴らしている。なお本研究では、調査船緑洋丸で天然魚を採集し、また舞鶴水産実験所の飼育棟で仔稚魚の飼育実験を行っており、フィールド研の地の利を最大限に活かした研究例と言えよう。(文責：益田玲爾)



口頭発表



レセプションの様子